

<要 旨>

「A かわりに B」の表現には 2 種類の解釈がある。一つは「～しないで～する」という解釈であり、もう一つは「～して～する」の解釈である。両者の違いは、(i) 品詞、(ii) 時制、(iii) A と B の「つりあい」、の 3 点に起因している。特に、「つりあい」の概念は「～かわりに」の表現にとって重要である。「～しないで～する」の場合は、A と B がプラス同士、もしくはマイナス同士でつりあっているが、「～して～する」の場合は、A がプラスなら B がマイナスに、A がマイナスなら B がプラスに、A と B を足してゼロになるようにつりあっているのである。本論文では、さまざまな例文を観察することによって、「A かわりに B」の解釈の分布の違いを明らかにし、その起因するところを考察する。

「～かわりに」の意味と用法

言語学・応用言語学専攻

1 L T 0 4 1 0 1 S

2 0 0 4 (平成 1 6) 年入学

長野彰子

2 0 0 8 (平成 2 0) 年 1 月提出

<目次>

1. はじめに	1
2. 「～かわりに」の意味	1
3. 「～しないでそのかわりに」と「～してそのかわりに」	2
3.1. 「～しないで～する」	2
3.2. 「～して～する」	3
4. 解釈の決定	4
4.1. 品詞	4
4.2. 時制	6
4.3. つりあい	7
5. 「つりあい」	8
5.1. 「～して～する」	8
5.1.1. 「つりあい」への影響	9
5.1.2. 意味	10
5.2. 「～しないで～する」の「つりあい」	15
6. 結論	15
7. 参考文献	16

1.はじめに

「～かわりに」という表現には2種類の解釈がある。

- (1) a. 手を洗うかわりに足を洗う。
- b. この街は静かで落ち着いているかわりに交通の便がやや悪い。

「AかわりにB」というときのAとBの関係を見てみると、(1a)のように「A：手は洗わない、B：足を洗う」という「～しないで～する」の意味と、(1b)のように「A：静かで落ち着いている、B：交通の便が悪い」という「～して～する」の意味になるときがある。私たちは、「～かわりに」を使用したときに、頭の中でどちらの意味になるのかを判断しているのである。判断の基準になる両者の違いは何であるのか、その違いを「～かわりに」の意味と用法に着目しながら分析する。なお、以下では「～かわりに」を挟んで前にくる項をA、後ろにくる項をBと呼ぶ。

以下、第2章では「～かわりに」の意味を分析し、第3章では「～しないで～する」と「～して～する」の例文を挙げる。第4章で「～しないで～する」の意味が「～して～する」の意味か判断する「鍵」を述べる。最後に第5章で第4章の条件を具体的に考察する。

2.「～かわりに」の意味

初めに「～かわりに」の基本的な意味を考える。すると、以下の2つに分けられる。

- (2) a. 代替/交代
 雨具のかわりにバケツを使う。
- b. 代償
 休日出勤したかわりに給料が増えていた。

(2a)は、楊(1995)の用語を使うと、「後任」としての「かわりに」である。「～かわりに」の文は単に「～かわりに」の前後のAかBかを選ぶという二者択一の選択を表すわけではなく、Aの後任としてBが選ばれるときのみ使われるという。そのため、Aが最初の候補であるという前提が考えにくい場合は「～かわりに」の文として解釈しにくい。

- (3) a. 銃のかわりに美女を抱き上げ喜ぶ笑顔(楊 1995: 424)
- b. 流動食のかわりに普通食が食べられるようになった。(楊 1995: 425)

(3a)は、これだけでは銃が最初の候補であるという前提は考えにくい、兵士たちが美女を抱き上げている写真の説明と言われれば、銃を持つのが本来の兵士の任務であるという前提が想像でき、自然に「～かわりに」の文が頭に入ってくるのがわかると楊 (1995)で説明されている。同じように(3b)でも、流動食しか食べられなかったという前提が容易に読み取れると述べられている。このように、(2a)代替/交代の「～かわりに」の文を作るには、BがAに対して「後任」であるという位置付けがなければならない。したがって(3a)の「兵士たち」のように何かしら状況設定を加えることで解釈しやすい文になることがある。

また、AとBには何らかの関係性がなければならない。

(4) 最近縄跳びをするかわりに骨盤を叩いている。

(4)は一見不適切に思えるが、ダイエットの方法としてのA、Bであると関係性を想像できれば、適切な文になる。そのままでは関係性が考えにくい文も、状況設定をすることによって解釈しやすくなる。この点は楊 (1995)でも、「文脈明示型」と「文脈非明示型」に分けられ、「文脈非明示型」の場合は一般の常識で共通の意義付けができるかどうかで決まると述べている。

(5) 彼はタバコを吸うかわりに、酒を飲んだ。(楊 1995 428)

(5)は「文脈非明示型」であるが「嗜好品を楽しむ」という共通の意義付けがAとBの間に容易に考え付くことができると述べられている。

3. 「～しないでそのかわりに」と「～してそのかわりに」

例文をみていくと、代替/交代の意味の「～かわりに」は「～しないでそのかわりに」の意味に、代償の意味の「～かわりに」が「～してそのかわりに」の意味になることがわかる。

3.1 「～しないで～する」

以下に「～しないで～する」という意味になる例文を挙げる。代替/交代の意味の「～かわりに」の文である。

- (6) a. りんごを食べるかわりにみかんを食べる。
b. 絵を見るかわりに本を読む。

- c. 隠れるかわりに走って逃げる。
d. 私のかわりに山田さんが会議に出る予定です。
e. ママは熱があるから、パパが(ママの)かわりに迎えにいくよ。
f. 夜になると昼見えていた(ものの)かわりに見えるものは何か。
g. 明日のかわりに今日頼みがあります。
h. 水族館のかわりに動物園に行く。

いずれも「AかわりにB」でAはしない、Bはするという解釈になっているのがわかる。(6d-f)のように「名詞の+かわりに」の形をとっているものが目につきやすい。水谷 (1985)でも、(6d)、(6e)のように「だれ」が問題になるときは日本語でも抵抗なく使われると述べられている。また(6g)のような「時」や(6h)のような「所」が問題になっているときも「～かわりに」は抵抗なく用いられていると述べられている。

3.2 「～して～する」

「～して～する」という解釈になる代償の「～かわりに」の文を挙げる。まずAの述語部分がテイル形の例文をあげる。

- (7) a. 米軍は土地を**使っている**かわりに沖縄を守っています。
b. プーさんのアトラクションが**混んでいる**かわりにこっちはすいている。
c. 話の出所は秘密ですが、**黙っている**かわりに写真を撮って見せてください。
d. 今度転職してきたこの街は静かで**落ち着いている**かわりに、交通の便がやや悪い。

次にAの述語部分が過去形の例文を挙げる。

- (8) a. ただで見**させてもらった**かわりに何でも買ってあげるよ。
b. 財布を**落とした**かわりに千円を拾った。
c. 腰を**痛めた**かわりに足の痛みが引いた。
d. お年玉を**いただいた**かわりにお礼にお年賀を出すのがベターですね。
e. (楽しい飲み会で)**寝なかった**かわりに最悪の体調だ。
f. 消えて**なくなってしまった**かわりに必ず何かが生まれる。
g. **寂しかった**かわりに今の自分がある。

最後にAの述語部分が現在形の例文を挙げる。

- (9) a. **可愛い**かわりに身体が弱い。

- b. 足がとても速いかわりに展開に左右される馬がいる。
- c. 体力的に楽なかわりに精神的に辛い仕事ですね。
- d. 食事が減るかわりに回数が増える。
- e. 多くの人が携帯を握り締めるかわりに周囲の声に耳を傾けずに歩いている。
- f. これをあげるかわりに、それを下さい。
- g. 謝るかわりに許してもらえた。
- h. お昼に手作り弁当を作るかわりに、夜は軽食に替えたのです。
- i. 朝と夜はきっちり食べるかわりに昼は食べない。
- j. 彼女のような生き方をしていたのでは、大きな失敗もしないかわりに胸躍するような経験もないだろうね。
- k. 給料が安いと愚痴をこぼすかわりに仕事があって良かったと感謝する。
- l. 私がいつまでも素敵でいるかわりに結婚しても豹変しないで欲しい。

いずれも、「AかわりにB」でAはする、Bもするという解釈になる。

4. 解釈の決定

これまで述べたように「～かわりに」には「～しないで～する」、「～して～する」の2つの解釈があるが、頭の中で「～かわりに」の解釈がどちらかに決定する過程はどのようになっているのだろうか。「～かわりに」のAにくる文に着目してみよう。Aにくる文は可能性として以下の4つのパターンが考えられる。

- (10) 名詞 + の + かわりに
- 形容詞 + かわりに
- 形容動詞 (の連体形) + かわりに
- 動詞 + かわりに

は(2a)でいう名詞「雨具」+「の」+「かわりに」のように「名詞」+「の」を含む表現がAにくるものである。は(9a)のように「形容詞」を含む表現がAにくるもの、は(9c)のように「形容動詞 (の連体形)」を含む表現がAにくるもの、は(9d)のように「動詞」を含む表現をAがとるものである。

4.1 品詞

まず初めに「～かわりに」のAの末尾にくる品詞に着目する。様々な例を観察してみると、(10)の の形の場合には「～しないで～する」の解釈に決定し、 、 の形の場

合には、末尾の品詞だけでは「～しないで～する」か「～して～する」かを判断できないということを述べる。

- (11) a. 「名詞」+「の」+「かわりに」：
彼のかわりにカレーを食べる。
- b. 「形容詞」+「かわりに」：
警察官として気が強いかわりに仕事ができる。
- c. 「形容動詞 (の連体形)」+「かわりに」：
その女性は素直なかわりに頑固だ。
- d. 「動詞」+「かわりに」：
料理を食べるかわりにお皿を洗う。

(11a)では「～しないで～する」の解釈のみが可能である。(11b)は、警察官として気が強いことが望まれているのに気が弱い、しかし仕事はできるというような「～しないで～する」の解釈に加えて、気が強くてしばしば上司と対立するが仕事はできるので上司もあまり強くはできないというような「～して～する」の解釈も可能である。同じように(11c)は、たとえば素直な女性が集まっているクラスで一人だけ素直という性質を持ち合わせていない女性がいたとすると「～しないで～する」の解釈になるし、素直ではあるが素直なだけに時としてとても頑固に思える女性のことを言っている場合には、「～して～する」の解釈になる。(11d)も、料理は食べないで食べる時間を利用してお皿を洗ったというような「～しないで～する」の解釈、料理を食べてそのかわりにしっかりと後片付けもしていくというような「～して～する」の解釈の二つが可能である。

ただし同じ「名詞」+「の」+「かわりに」になっても、何らかの動作が名詞の後に想定できる文脈のときは、「形容詞」「形容動詞 (の連体形)」「動詞」+「かわりに」と同じように「～しないで～する」と「～して～する」のどちらの解釈も可能である。

- (12) a. 彼女は会場設営 (をやる) のかわりにケーキを食べに行く。
- b. 彼はテレビ (を見る) のかわりに勉強する。

(12a)では、「～しないで～する」の解釈をして、その日会場設営を頼まれていたがケーキを食べに行く方を選択したと考えることもできるし、「～して～する」の解釈をして、会場設営というやりたくない仕事をした代償としてケーキを食べに行くと考えられる。 (12b)では、テレビを見ないでその時間を勉強時間に当てるとするような「～しないで～する」の解釈も可能であるし、どうしても見たいテレビ番組を一時間だけ見て、その勢いでその後勉強も頑張るとするような「～しないで～する」の解釈も可能である。

4.2 時制

次に「～しないで～する」なのか「～して～する」なのか判断できなかった「形容詞」「形容動詞の連体形」「動詞」+「かわりに」をみていく。「～かわりに」の前後の時制に着目すると、「～かわりに」の前にくる項 A が過去形を含む表現になっていれば、「～して～する」の解釈に決まることが分かる。まず「動詞」+「かわりに」を見ていこう。

- (13) a. A (現在形) かわりに B (現在形)。
b. A (現在形) かわりに B (過去形)。
c. A (過去形) かわりに B (過去形)。
d. A (過去形) かわりに B (現在形)。

(13a)、(13b)のように A が現在形を含むものであるときは、後ろの文の時制に関係なくどちらの解釈にもなり得る。例えば下記の(14)でいうと、夜食を食べようとしていたが明日のテストまで時間がないので夜食を食べずに勉強をするという状況を考えて「～しないで～する」の解釈になるし、夜食を食べて元気を出してそのかわりにその後頑張って勉強をするという状況を考えて「～して～する」の解釈になる。

- (14) 夜食を「食べる」かわりに勉強をする。

しかし(13c)、(13d)のように A が過去形を含むものであるときは、後ろの文の時制に関係なく「～して～する」の解釈にしかならない。

(15a)では、夜食を食べて元気を出してその後頑張る嫌な勉強をするとか、夜食を食べないと決めていたのに食べてしまったがその後頑張る勉強をするなど、様々な状況が考えられるが、いずれも「～して～する」の解釈にしかならず、夜食は食べたことになる。

- (15) a. 夜食を「食べた」かわりに勉強をする。
b. 夜食を「食べている」かわりに勉強する。

過去形では既に動作が完結してしまっているため、「～して」の解釈になる。(15b)では完結はしていないながらも、過去形と同じように既に動作を始めてしまっているため、「～して」の解釈になる。

同じように形容詞でも考えてみよう。

- (16) a. この家具セットは軽いかわりに複雑だ。
b. この家具セットは軽いかわりに複雑だった。
c. この家具セットは軽かったかわりに複雑だ。
d. この家具セットは軽かったかわりに複雑だった。

(16a)、(16b)は A が現在形を含むものである。この場合、「～しないで～する」の解釈をして、軽くはないが複雑なものを考えることもできるし、「～して～する」の解釈をして、軽くて持ち易く良かったが複雑で組み立てにくいものだと考えることもできる。しかし動詞のときと同じように、(16c)、(16d)のように過去形になると家具セットは軽いとしか考えられず、「～して～する」の解釈しかできない。

次に形容動詞の例をみていこう。

- (17) a. ダンスが華麗なかわりに彼女の頑張りがみえる。
b. ダンスが華麗なかわりに彼女の頑張りがみえた。
c. ダンスが華麗だったかわりに彼女の頑張りがみえる。
d. ダンスが華麗だったかわりに彼女の頑張りがみえた。

(17a)、(17b)は A が現在形を含むものである。この場合、「～しないで～する」の解釈をして、彼女のダンスは華麗ではないが彼女が頑張っているのは伺えるというような解釈もできるし、「～して～する」の解釈をして、ダンスが華麗なのは彼女の努力があるからだというような解釈もできる。一方、(17c)、(17d)では、彼女のダンスは華麗であるとは考えられず「～して～する」の解釈しかできない。このように、「～かわりに」の文で A が過去形を含むものであると「～して～する」の解釈しかできない。

4.3 つりあい

A が現在形の「形容詞」「形容動詞(の連体形)」「動詞」+「かわりに」のとき、「～しないで～する」の解釈となるのか「～して～する」の解釈となるのかは何が材料となって決定するのだろうか。結論からいうと、「～かわりに」の前後の A、B を比較したときに、両者にプラスマイナスゼロになるような「つりあい」が求められているかどうか鍵となっている。A が現在形を含むものの場合、どちらの解釈も可能であると述べたが、「～かわりに」の入った文を聞いた人が、「～かわりに」の前後の A と B を比べてどちらかがプラスでどちらかがマイナスの状況であると捉えて、A、B 併せてゼロになるような「つりあい」がとれている状況を思い浮かべた場合には、「～して～する」の解釈をする。例えば(14)で「～して～する」の解釈をするとき、この文を聞いた人が、「A 夜食を食べること」を元気が出て勉強がはかどると考えてプラスの出来事に捉えたとする。そして「その

後の勉強」を本当はやりたくないマイナスの出来事に捉えた」とすると、それが A と B にプラスマイナスゼロの「つりあい」を感じる状況ということである。人によって「夜食を食べることをマイナスの出来事に、「その後の勉強」をプラスの出来事に捉え「つりあい」もできる。その場合、その人の頭の中のイメージとして、心配なぐらいに勉強をしている人物で、親に夜食を食べないとこれ以上勉強してはいけなと言われていた状況を感じ浮かべるとこの解釈がし易い。

このように「つりあい」が関係し、「～して～する」の「～かわりに」は A をマイナスに解釈、B をプラスに解釈するか、A をプラスに解釈、B をマイナスに解釈するかのどちらかになる。プラス面とマイナス面が両方あるため「代償」のニュアンスが感じられる。

5. 「つりあい」

A が現在形を含むもので「形容詞」「形容動詞」「動詞」+「かわりに」の解釈を決定するのに「つりあい」を挙げたが、ここでその「つりあい」を具体的にみていきたい。

5.1. 「～して～する」

A が現在形を含むものの「形容詞」、「形容動詞」、「動詞」+「～かわりに」が「～して～する」の解釈をするとき、A か B どちらかをプラスの出来事に、もう一方をマイナスの出来事に考え、足してゼロに近くなるような「つりあい」を感じていると前節で述べた。

(18) コンサートに行くかわりに掃除をした。

(18)の場合、コンサートに行くのがプラス、掃除をするのがマイナスと捉えていると考え易いのではないだろうか。ここでマイナスのイメージを連想しやすい「掃除をする」という言葉を、プラスのイメージを連想しやすいと思われるものに換えてみる。また同じように、A、B ともにプラスのイメージを持ち易いもので例文を作ってみる。

(19) a. コンサートに行くかわりにケーキを食べた。
b. (私が)幸せになるかわりに(あなたも)幸せになる。

こうしてみると、A も B も必ずしもマイナスのイメージを連想しなくても良いはずであるのに、(19a)では、コンサートに行くことがマイナスであるのか、ケーキを食べることがマイナスであるのかわからないけれども、どちらか一方はあまりしたくないことに感じられる。例えば音楽の嫌いな人が友人に連れられて無理やり 3 時間のコンサートに行くときに、

その前にせめて大好きなケーキを食べて気を紛らわそうとしたのかもしれない。また、自分が行くコンサートに付き合ってもらうときに、自分は嫌いであるがその友人に付き合っただけでケーキを食べに行くというような関係が想像できる。(19b)では、両者共に幸せになるのに、やはり A と B のどちらかにマイナスの意味合いが込められていると感じられる。私が幸せになってあなたも幸せになる、と言ったときと比べると、「～かわりに」を使ったときとの違いは明確である。「～かわりに」が「～して～する」の意味で解釈されるとき、「～かわりに」を挟んで前後の A、B がプラス、マイナス反対のニュアンスを与え、足してゼロに近くなるように感じる事がわかる。

加えて、A、B がプラス、マイナスで足してゼロにより近く感じ易い方がよく使われる。「つりあい」を感じ易い方が聞いたときに理解が早いように感じられる。

(20) a. 血のにじむような努力をするかわりに第三希望の高校に入学できた。
b. 血のにじむような努力をするかわりに第一希望の高校に入学できた。

(20a)よりも(20b)の方が違和感なく解釈しやすい。「血のにじむような努力をする」ことをマイナスの出来事に、「高校に入学できた」ことをプラスの出来事に解釈すると、(20a)のように「第三希望の高校」よりは(20b)「第一希望の高校」の方が「血のにじむような努力をする」というマイナスを打ち消してゼロに近くしてくれているからである。

5.1.1. 「つりあい」への影響

これまで述べてきた「つりあい」がとれていると解釈するのに影響している要因は何か。まず動作主の影響が考えられる。A が現在形の「形容詞」「形容動詞」「動詞」+「かわりに」の文を「～しないで～する」に解釈するのか、「～して～する」に解釈するのかは、解釈する人の頭の中に委ねられているわけだが、A という行為を行うものと、「～かわりに」の後に続く項 B の行為を行うものが異なれば、動作主が同じときより「～して～する」という解釈がしやすくなる。これは、「～かわりに」の前後 A、B で比較する要素が増えたことで、プラス、マイナスを考え易くなるからである。一つの文で同じ動作主にプラスの出来事とマイナスの出来事が起きたと考えるよりは、違う動作主に起こった方が考え易い。

(21) a. 私はりんごを食べるかわりにみかんを食べる。
b. 私がりんごを食べるかわりに彼はみかんを食べる。

(21a)では、私はりんごを食べずにみかんを食べることになり、「～しないで～する」の形になっている。また、「～して～する」の意味に解釈して、嫌いなりんごを食べたならみ

かんを食べていいよと言われていた状況を考えることもできる。しかし、(21b)のように、りんごを食べるといふ行為とみかんを食べるといふ行為の動作主を違うものに解釈してみると、私がりんごを食べて彼がみかんを食べる状況を想像し、(21a)に比べると「～して～する」という意味に捉えることがよりしやすい。「～して～する」の解釈になるため、「代償」の意味になる。例えば、りんごとみかんを食べてしまわなければならない状況で私がりんごを食べたかわりに、りんごが好きな彼はみかんを選ばなくてはならなくなったというような解釈がしやすい。

また反対語句の影響も考えられる。「～かわりに」の前後 A と B で対比が連想しやすいと、A と B に「つりあい」が感じやすくなり、「～して～する」の解釈がしやすくなる。対比を連想しやすいかどうかは人の頭の中に委ねられているわけだが、対比を感じ易いのは、例えば例文(9b), (9d), (9f), (9g), (9h), (9i), (9j)などである。

- (22) a. (cf.(9b)) 足が速い、展開に左右される(競走馬にとっての長所と短所の対比)
 b. (cf.(9d)) 減る、増える
 c. (cf.(9f)) あげる、もらう
 d. (cf.(9g)) 謝る、許す
 e. (cf.(9h)) 昼の手作り弁当、夜の軽食
 f. (cf.(9i)) 食べる、食べない
 g. (cf.(9j)) 大きな失敗、胸躍るような経験

では、対比を連想し易い語句が入っている例文と入っていない例文を比較してみよう。

- (23) a. ウォーキングするかわりにご飯をしっかりと食べる。
 b. 朝、ウォーキングするかわりに、夜ご飯をしっかりと食べる。

(23a)は対比を連想し易い語句が入っていない例文である。この場合、ウォーキングしないでそのかわりその時間を使ってご飯をしっかりと食べるというような「～しないで～する」の解釈、ウォーキングをしてカロリーを消費した分ご飯をしっかりと食べてもいいと考えたというような「～して～する」の解釈の両方が容易にできる。しかし(23b)では、「～して～する」の解釈の方が頭に入り易い。

5.1.2.意味

「～して～する」の「～かわりに」は「～から」か「～けど」に置き換えられる¹。この

¹ 提案や命令の形にすると、「動詞」+「～かわりに」で「～しないで～する」の解釈になるものは「～

ことで同じプラスマイナスゼロになるような「つりあい」でも理由や原因(～から)を表わして「つりあい」をとっている場合と、前の事柄と違うことを持ってきて(～けど)「つりあい」をとっている場合があると考えられる。

- (24) a. 話の出所は秘密ですが、黙っているかわりに写真を撮って見せてください。
 (= (7c))
 b. 話の出所は秘密ですが、黙っているから写真を撮って見せてください。
 c. 話の出所は秘密ですが、黙っているけど写真を撮って見せてください。
- (25) a. 米軍は土地を使っているかわりに沖縄を守っています。(= (7a))
 b. 米軍は土地を使っているから沖縄を守っています。
 c. 米軍は土地を使っているけど沖縄を守っています。
- (26) a. 今度転勤してきたこの街は静かで落ち着いているかわりに、交通の便がやや悪い。
 (= (7d))
 b. 今度転勤してきたこの街は静かで落ち着いているから、交通の便がやや悪い。
 c. 今度転勤してきたこの街は静かで落ち着いているけど、交通の便がやや悪い。
- (27) a. プーさんのアトラクションが混んでいるかわりにこっちはすいている。(= (7b))
 b. プーさんのアトラクションが混んでいるからこっちはすいている。
 c. プーさんのアトラクションが混んでいるけどこっちはすいている。
- (28) a. ただで見させてもらったかわりに何でも買ってあげるよ。(= (8a))
 b. ただで見させてもらったから何でも買ってあげるよ。
 c. ?ただで見させてもらったけど何でも買ってあげるよ。
- (29) a. 財布を落としたかわりに千円を拾った。(= (8b))
 b. ?財布を落としたから(神様が可哀想に思って)千円を拾った。

なら」に置き換えられる。

- (i) a. (みかんが腐りかけなので)りんごを食べるかわりにみかんを食べてよ。
 b. (みかんが腐りかけなので)りんごを食べるならみかんを食べてよ。
- (ii) a. (本の返却期限が迫っている、時間があるなら)絵を見るかわりに本を読もうよ。
 b. (本の返却期限が迫っている、時間があるなら)絵を見るなら本を読もうよ。
- (iii) a. 隠れるかわりに走って逃げよう。
 b. 隠れるなら走って逃げよう。
- (iv) a. 謝るかわりに行動を起こしなさい。
 b. 謝るなら行動を起こしなさい。

- c. 財布を落としたけど千円を拾った。
- (30) a. 腰を痛めたかわりに足の痛みがひいた。(= (8c))
 b. ?腰を痛めたから(前に痛めた足が気にならなくなって)足の痛みがひいた。
 c. 腰を痛めたけど足の痛みがひいた。
- (31) a. お年玉をいただいたかわりにお礼にお年賀を出すのがベターですね。(= (8d))
 b. お年玉をいただいたからお礼にお年賀を出すのがベターですね。
 c. お年玉をいただいたけどお礼にお年賀を出すのがベターですね。
- (32) a. (楽しい飲み会で)寝なかったかわりに最悪の体調だ。(= (8e))
 b. 寝なかったから最悪の体調だ。
 c. (寝なければいいことが起こると言われ)寝なかったけど最悪の体調だ。
- (33) a. 消えてなくなってしまったかわりに必ず何かが生まれる。(= (8f))
 b. 消えてなくなってしまったから必ず何かが生まれるはずだ。
 c. 消えてなくなってしまったけど必ず何かが生まれるよ。
- (34) a. 寂しかったかわりに今の自分がある。(= (8g))
 b. 寂しかったから今の自分がある。
 c. 寂しかったけど今の自分がある。
- (35) a. 可愛いかわりに身体が弱い。(= (9a))
 b. 可愛いから身体が弱い。
 c. 可愛いけど身体が弱い。
- (36) a. 足はとても速いかわりに展開に左右される馬がいる。(= (9b))
 b. ?足はとても速いから展開に左右される馬がいる。
 c. 足はとても速いけど展開に左右される馬がいる。
- (37) a. 体力的に楽なかわりに精神的に辛い仕事ですね。(= (9c))
 b. 体力的に楽だから精神的に辛い仕事ですね。
 c. 体力的に楽けど精神的に辛い仕事ですね。
- (38) a. 食事が減るかわりに回数が増える。(= (9d))
- b. 食事が減ったから回数が増えた。
 c. 食事が減ったけど回数が増えた。
- (39) a. 多くの人が携帯を握り締めるかわりに周囲の声に耳を傾けずに歩いている。
 (= (9e))
 b. 多くの人が携帯を握り締めるから周囲の声に耳を傾けずに歩いている。
 c. 多くの人が携帯を握り締めるけど周囲の声に耳を傾けずに歩いている。
- (40) a. これをあげるかわりに、それを下さい。(= (9f))
 b. これをあげるから、それを下さい。
 c. これをあげるけど、それを下さい。
- (41) a. 謝るかわりに許してもらえた。(= (9g))
 b. 謝るから許してもらおう。
 c. 謝るけど許してもらえるならいいや。
- (42) a. お昼に手作り弁当を作るかわりに、夜は軽食に替えたのです。(= (9h))
 b. お昼に手作り弁当を作るから、夜は軽食に替えたのです。
 c. お昼は手作り弁当を作るけど、夜は軽食に替えたのです。
- (43) a. 朝と夜はきっちり食べるかわりに昼は食べない。(= (9i))
 b. 朝と夜はきっちり食べるから昼は食べない。
 c. 朝と夜はきっちり食べるけど昼は食べない。
- (44) a. 彼女のような生き方をしていたのでは、大きな失敗もしないかわりに胸躍るような経験もないだろうね。(= (9j))
 b. ?彼女のような生き方をしていたのでは、大きな失敗もしないから胸躍るような経験もないだろうね。
 c. 彼女のような生き方をしていたのでは、大きな失敗もしないけど胸躍るような経験もないだろうね。
- (45) a. 給料が安いと愚痴をこぼすかわりに仕事があつて良かったと感謝する。(= (9k))
 b. *給料が安いと愚痴をこぼすから仕事があつて良かったと感謝する。
 c. 給料が安いと愚痴をこぼすけど仕事があつて良かったと感謝する。

- (46) a. 私がいつまでも素敵でいるかわりに結婚しても豹変しないで欲しい。(= (91))
 b. 私がいつまでも素敵でいるから結婚しても豹変しないで欲しい。
 c. 私がいつまでも素敵でいるけど結婚しても豹変しないで欲しい。
- (47) a. (どちらかを選ぶ状況で) (私が) りんごを食べるかわりに (あなたが) みかんを食べる。(cf. (6a))
 b. (私が) りんごを食べるから (あなたが) みかんを食べる。
 c. (私が) りんごを食べるけど (あなたは) みかんを食べる。
- (48) a. (どちらかを選ぶ状況で) (私が) 絵を見るかわりに (あなたが) 本を読んで下さい。(cf. (6b))
 b. (私が) 絵を見るから (あなたが) 本を読んで下さい。
 c. (私が) 絵を見るけど (あなたは) 本を読んで下さい。
- (49) a. (どちらかを選ぶ状況で) (私が) 隠れるかわりに (あなたが) 走って逃げる。
 (cf. (6c))
 b. (私が) 隠れるから (あなたは) 走って逃げて下さい。
 c. (私が) 隠れるけど (あなたは) 走って逃げて下さい。

状況によって、どちらにも解釈できる文もあれば片方は許容できないように感じる文もあるが、「～から」にも「～けど」にもどちらにも置き換えられない「～して～する」の文は考え付かない。「～かわりに」の文を「～してそのかわりに」という意味に捉えたとき、「～かわりに」という語句を使いながらも頭の中で「～から」か「～けど」のどちらがその場に相応しいニュアンスなのかを汲み取っているのではないだろうか。

「～かわりに」の意味が「～から」に近いと感じられる場合と、「～けど」に近いと感じられる場合とがある。例文でいうと、後者に属するのは(26)、(29)、(30)、(33)、(36)、(39)、(44)、(45)である。これらのうち、どちらかといえば「～けど」の方が合うと思われる文は、「～かわりに」を挟んだ前後の A、B に関係性が捉えにくいためであると考えられる。例えば、(26)で、「～けど」の方が合うと思われるのは、静かで落ち着いていることが理由で、すぐに交通の便が悪いという結論に落ち着きにくいからであろう。一方で、「～から」の方が合うと考えられる文をみると、状況が浮かびやすく関係性が想像しやすい。市川 (1978) は、「～から」は順接型で前の内容から当然予想される結果を後に述べるときに使われ、「～けど」は逆接型で前の内容から予想されること反する内容を後に述べるときに使われる、と述べている。このように性質の違う「～から」と「～けど」に置き換えられるのは「～して～する」の文が「代償」の意味を持つからである。A と B が「代償」の

関係にあるのなら、A がきてその後 B に、当然予想される結果がきてもおかしくない。また A が解釈者の主観でプラスなら B はマイナスになり、プラスマイナスは必ず逆になる。プラスとマイナスが逆であるため「～けど」に置き換えても自然になる。

5.2. 「～しないで～する」の「つりあい」

では「～しないで～する」の解釈をするときは「つりあい」はどうなっているのだろうか。この場合、A も B もプラスの出来事に捉えてもマイナスの出来事に捉えても良い。しかし、A と B でプラスとマイナスが反対の場合は足してゼロの解釈はしていないことになる。この考えを持つと「～して～する」の解釈になってしまう。

- (50) a. 美味しいりんごを食べるかわりに腐ったみかんを食べる。
 b. 腐ったみかんを食べるかわりに美味しいりんごを食べる。

人は美味しいりんごを食べられることが喜ばしいことでプラスの状況、腐ったみかんを食べることは嫌でマイナスの状況に思うとする。そうすると、(50a) で A をプラスの状況、そして B をマイナスの状況に捉えると、ここでプラスマイナスゼロの状況になり、「～して～する」の解釈になる。しかし、「～しないで～する」の解釈をしているときは美味しいりんごは食べていないのだから A はマイナスの状況、B もマイナスの状況で、マイナスとマイナスの「つりあい」を感じている。つまり足してゼロではなく、マイナスである。同様に、(50b) では、A をマイナスの状況、B をプラスの状況に捉えると、全体ではプラスマイナスゼロの状況になり「～して～する」の解釈になる。A をみかんは食べていないのだからプラスの状況、B をプラスの状況に捉えると、プラスとプラスの「つりあい」を感じていることになる。つまり足してゼロではなくプラスになる。

このように、「～しないで～する」の解釈をするときは、A と B はプラスマイナスゼロの関係ではなく、プラス同士で「つりあい」をとっている場合とマイナス同士で「つりあい」をとっている場合、もしくはプラスもマイナスも関係なく中立同士で「つりあい」をとっている場合がある。つまり、「～かわりに」の文を解釈する人が A と B を同じ同士の「つりあい」に解釈すれば「～しないで～する」になる。

6. 結論

「～かわりに」が「～しないで～する」なのか「～して～する」なのか判断する鍵となるのは、「品詞」、「時制」、「つりあい」の3点である。まず「品詞」は、例外はあるが A が「名詞の」になっていれば「～しないで～する」に決定する。次に A が「過去形」もしくは「現在進行形」になっていれば「～して～する」の解釈に決定する。それ以外の

文は「つりあい」で決まる。「～しないで～する」ではAがプラス、Bがマイナスか、その逆、もしくはA、Bともに中立でつりあう。しかし「～して～する」ではAがプラスならBがマイナス、AがマイナスならBがプラスとなりA、Bが逆でつりあう。

7.参考文献

- 泉原省二（2007）「1.6. 主題/対比」『日本語類義表現使い分け辞典』 140-149 東京：研究社
- 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』 東京：教育出版
- グループジャマシィ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』 東京：くろしお出版
- 佐久間まゆみ（1990）[接続表現（1）]『ケーススタディ 日本語の文章・談話』 12-23 東京：桜楓社
- 水谷信子（1985）「第 章 接続に関する比較」『日英比較 話しことばの文法』 159-166 東京：くろしお出版
- 楊凱栄（1995）「「かわりに」、「そのかわり」について」、仁田義雄 編 『複文の研究（下）』 421-438 東京：くろしお出版